

牛乳によるアレルギー No.38 (H16.10)

赤ちゃんや小学校低学年くらいまでの小さい子供で、牛乳や卵にアレルギーを起こす子がいます。この症状は、喘息やアトピー性皮膚炎、花粉症などと同じで体の防御反応の行き過ぎによるものだということをご存知でしょうか？

今回はアレルギー反応の簡単な仕組みと、小さな子供に起こる牛乳アレルギーを取り上げてみます。

人間の体は常に、空気中の細菌やウイルスなど人体に害のあるものにさらされています。しかし、それらの細菌やウイルスにはそう簡単に感染しません。なぜでしょうか？

それは体の中には「免疫機構」というものがあるからです。つまり、異物が体内に侵入すると、マクロファージ、リンパ球や補体と呼ばれる免疫に関係する細胞などが、異物を攻撃したり取り除いたりして健康な体を維持するのです。

このとき免疫細胞から異物をやっつける為に、色々な化学物質が出されます。この化学物質が体のいろいろな所で炎症を引き起こすのです。

こうして見てくると、体にとって異物ではなさそうな食べ物でアレルギー反応が起こるのは不思議に思うかもしれません。どうして、食品が「異物」となってしまうのでしょうか？それは、まだ生まれて間もない頃の消化管の発達具合に関係すると言われていています。

牛乳にはたんぱく質が主要な成分として入っていますが、そのたんぱく質を体の中に取り込むには、消化酵素で「ポリペプチド」そして「アミノ酸」と分解された形にならなければなりません。

しかし、消化管がきちんとできていない小さな子供では、分解される前のたんぱく質やポリペプチドの形で消化管から体内に入ってきてしまいます。すると、これらを体が異物と勘違いしてしまい、アレルギー反応が起きてしまうのです。

生まれて間もない赤ちゃんに牛乳や牛乳を原料とした人工乳を与えたり、離乳食に切り替える時期が早すぎたりすると、このようなアレルギー反応が起きる可能性があります。

なお、牛乳アレルギーは多くの方は2～3歳までに治るので、それほど心配することはありません。

牛乳アレルギーの原因物質はたんぱく質の中でも、特にカゼインと言われる物質であると考えられています。カゼインはお薬の中にも含まれている場合がありますので、牛乳アレルギーをもっている方は医師や薬剤師に相談してみましょう。

《当院採用で牛乳アレルギーの方が気をつける薬剤》

セフェム系抗生物質	メイアクト錠	添加物としてカゼインを含む
肝不全用経口栄養剤	アミノレバン EN	
経腸成分栄養剤	エンシュア・リキッド	牛乳由来のカゼインが有効成分
	エンシュア・H	
	ハーモニックF	
	ラコール	
下痢止め	タンニン酸アルブミン	アルブミンの代わりにカゼインを使用
整腸剤	ラックビー	製造段階に乳成分を使用